

2022（令和4）年10月11日

2022（令和4）年度関西保育福祉専門学校

第1回学校関係者評価委員会報告

本校の学校関係者評価委員会設置要綱に基づき設置した学校関係者評価委員会において、第1回学校関係者評価委員会を開催いたしましたので、概要をお知らせいたします。

1 開催期日 令和4年10月4日（火）15:00～17:00

2 開催場所 関西保育福祉専門学校 2F 校長室

3 出席者

■ 学校関係者評価委員

NO	委員名	所属等	出欠
1	前田由季子委員	社会福祉法人 樫の木会 開明かしの木こども園 園長	出席
2	田淵勝彦 委員	社会福祉法人 みおつくし福祉会 救護施設 淀川寮 施設長	出席
3	山下知一 委員	社会福祉法人 宝塚さざんか福祉会 宝塚さざんかの家 施設長	出席
4	松本陽介 委員	学校法人阪急学園 副理事長 認定こども園 いるか幼稚園 園長	出席
5	板羽茂雄 委員	兵庫県立尼崎高等学校 校長	出席
6	丸山和幸 委員	社会福祉法人 三田谷治療教育院 芦屋翠ホーム 施設長	出席
7	麩山紀湖 委員	保育科1年 保護者	出席

■ 学校教職員

NO	名前	所属等	出欠
1	濱名 篤	学校法人濱名山手学院理事長 関西国際大学学長	出席
2	本田 あけみ	校長 関西国際大学経営学部 教授	出席
3	竹島 琢夫	事務局長	出席
4	榎本 優人	学校関係者評価委員会担当	出席
5	藤田 千波	保育科学科長 就職委員長	出席
6	中嶋 昭典	介護福祉科学科長	出席
7	村田 健治	教務委員長	出席
8	吉田 しのぶ	入試委員長	出席
9	藤井 和子	学生指導委員長	出席

4 概 要

(1) 理事長挨拶

(2) 校長挨拶

(3) 委員長選出

委員長に山下 知一 委員が選出された。

(4) 報告

報告事項1 「2021（令和3）年度関西保育福祉専門学校自己評価報告書」について

■ 学校から、年度末で数字が確定した箇所などを説明

報告事項2 学校の現状について

■ 学校から、資料に基づき説明

(5) 協議

報告事項1 2022(令和4)年度の取り組みについて

①学校経営重点目標

■ 学校から、資料に基づき説明

②学校における新型コロナウイルス感染症対策の取り組みについて

■ 学校から、資料に基づき説明

□ 委員の主な質問・意見

○実習開始3週間前から学生が付けている事前の「体調管理チェックシート」を活用出来ていることが良い。

○実習を受け入れる側もコロナによるダメージは大きく、職員に感染者が多数出てしまったり、またその学生さんの実習が延期・中止になってしまうと、その後の予定調整の難しさを同時に感じている。

○学校内ではなく、放課後等、我々の管理下でない所での感染が多く見られた。またそのようなことに対して、我々がどれだけ(どのように)対応できるのか、また生徒側にどうすれば感染症対策を上手く定着させることができるのか日々悩んでいる。そのような力を付けて送り出したいとは考えている。

○昼食時に関する意見として、黙食徹底がされていないように感じることもある。

③保育科の取り組みについて

■ 学校から、資料に基づき説明

□ 委員の主な質問・意見

○実習に来られた学生の姿として、決められたことをそれなりにこなす能力はあるが、挨拶や守るべき事項の徹底が出来ていないこと、何より理解力の低さを痛感することが多かった。

時代の変遷と共に、多種多様な学生が多くなってきている現状を重々理解した上で、指導される学校側も大変だろうが、その辺りの徹底をお願いしたい。

○ オンライン授業の在り方として、高校側も日々四苦八苦しながら模索し続けている現状がある。Wi-Fiの容量の問題等、まだまだ解決すべき問題点は多いなど感じている。

④介護福祉科の取り組みについて

■ 学校から、資料に基づき説明

□ 委員の主な質問・意見

- コロナ禍ではあるが柔軟な対応をされている印象である。
- 入所施設の高齢化が進んでいる。社会的にも障がい福祉の必要性が叫ばれている中、また自身の周囲では「学びたい！」という言葉が多く聞かれる中で、貴校の介護福祉科廃止は改めて残念である。
- かつて新人研修として実施していたマナー研修を職員全員で受講。その理由として、教える側もブラッシュアップしていく必要性を痛感しているからである。

⑤その他

■ 学校から、資料に基づき説明

□ 委員の主な質問・意見

- アルバイトに関して、幼稚園での預かり保育のニーズの上昇もあり、西宮市は市をあげて募集している状況である。専門学校生には難しいかなと思うが、大学生等では日中から来てもらったりしている。アルバイトを経験いただくと、実習以上に就職へと結びつきやすい現状があり、信頼関係も構築しやすいとの声が上がっているため、貴校でもぜひ斡旋いただけると嬉しい。
- ペイドインターンシップの制度等をさらに活用した就職のマッチングが行えると良いのではないだろうか。
- 時代の変遷とともに様々な考え方が生まれてきている状況下で、尼崎市の高校生の現状としては、彼らの進学先として身近な場所を選択する傾向があるため、地域密着型ではないが、そのような選択が少しでも増えて行くよう、努めていきたい。

(6) 事務連絡

■ 第2回の会議は、来年の2月20日月曜日に予定しており、学校自己評価報告書に対する評価を依頼予定。